

誓いのことば

本日、私たち新入生一同は、国際医療福祉大学医学部の第一期生として、それぞれの道を歩み出そうとしています。最初は、これまでにない新しいビジョンを持った新設校であり、上級生がいない不安や、英語中心の授業についていくことができるのだろうかという漫然とした不安がありましたが、これまでに2万人の卒業生が輩出されていること、4つの附属病院をはじめ全国に多くの大学関連医療福祉施設があること、学部長や医学科長をはじめとする医学教育のエキスパートが多数在籍されていることなど、国際医療福祉大学を知るにつれ、少しずつ不安な気持ちが払拭されました。

いま私たちは、新しい医学部の第1期生として、古い伝統やしがらみに捉われたり変化を恐れたりすることなく、日本の医学部の歴史において新しい礎となるべく決意を新たにしています。

思い起こせば、小学校5年生のときにモンゴルのウランバートル市を訪れたことが、医師をめざすきっかけとなりました。生まれつき心臓を患っている子どもたちと触れ合うボランティア活動に、父と一緒に参加する機会がありました。子どもたちの小さな指先に酸素飽和度測定器をつけ、表示される酸素飽和度を読み上げることが私の役割でした。医学知識が全くない私にも、62%という酸素飽和度が異常な数値であること、顔色が悪く、症状が極めて悪いことがわかる子どももいました。そのときの体験から、将来は新興国や発展途上国で医師として活躍したいと考え、国際医療福祉大学を受験いたしました。

私たち一人一人の力は、とても小さく限られています。「よき旅の道連れは旅路を短くさせる」という言葉があります。これから6年間一緒に学ぶ仲間たちとともに、先生方のご指導をいただきながら、国際社会において恥ずかしくない幅広い教養と、豊かな人間性を兼ね備えた医師をめざしてまいります。

最後に、「共に生きる社会の実現」というこの大学の建学の精神を忘れず、病気や障害を持った患者さんに対する慈しみの心と、高い総合診療能力を兼ね備えた医師になることができますよう、新入生一同、一期生である誇りを胸に、新しい一歩を踏み出すことをここに誓います。

平成29年4月2日
新入生代表 上田 諒

留学生 誓いのことば

こんにちは。私は留学生のタルガト・ティレウベクと申します。本日は、留学生を代表してご挨拶を申し上げます。

私は、モンゴルの首都ウランバートルから1,500キロ離れた、バヤンウルギーというモンゴルで一番高い山があるところで生まれ育ちました。高校を卒業後、モンゴルの国立医科大学で1年間勉強していましたが、昨年11月4日に初めて来日し、日本語の勉強を始めました。日本語は漢字を使うので大変難しく感じましたが、国際医療福祉大学の日本語の先生方のおかげで、勉強が楽しくなり日本語が好きになりました。

今日私がお伝えしたいのは、人生はとても素晴らしいということです。去年の今ごろ、モンゴルで日本人研究者のセミナーに出席しました。そのときは日本語がわからなかったので、その研究者に日本語で質問している学生たちを見てうらやましいと思い、日本で学びたいという気持ちが生まれました。しかし、日本の医学部で学ぶという夢が、こんなに早く現実になるとは想像もしていませんでした。私をこの大学に推薦してくれた、モンゴル国立医科大学に感謝しています。また、授業料から生活費までをすべてカバーするフルスカラーシップで私を受け入れ、とても恵まれた環境を与えてくださった国際医療福祉大学にも心から感謝いたします。

この新しい医学部の一期生として学び、仲間や先生方と一緒に歴史を作っていくことは、大変光栄なことだと思っています。アジア各国の留学生と、日本の学生がお互いに学びあうことができるこれまでにない医学部から、アジアの医療に貢献し、アジアのリーダーとして活躍できる医師がたくさん生まれると思っています。

各分野で活躍されてきた先生方に教えていただくのは、私たちにとって大変大きなチャンスです。医学部の一期生として、母国モンゴルの医療を向上させるために貢献できる医師をめざしたいと思っています。外国で医学を勉強することは、簡単なことではありませんが、留学生一同、目標に向かって一生懸命がんばることをここに誓います。

平成29年4月2日
留学生代表 タルガト・ティレウベク